

平成 29 年度第 7 回宍粟市総合教育会議議事録（要旨）

1 開会及び閉会の日時及び場所

平成 29 年 11 月 14 日（火）午前 11 時 00 分～午後 0 時 05 分
宍粟市役所 402 会議室

2 会議に出席した者の職氏名

（構成員）市長 福元 晶三 教育長 西岡 章寿
教育委員 中山由香里 前田 純恵 金本 一二
（事務局）教育委員会事務局
教育部長 藤原 卓郎 教育部次長 前田 正人
教育次長 田路 正幸 学校教育課長 山本 哲史
学校教育課副課長 世良 繁信 教育総務課長 橋本 徹
教育総務課副課長 福元 佳代

3 開会

（教育総務課長）ただいまから第 7 回宍粟市総合教育会議が開会されます。福元市長より開会にあたっての挨拶、続いて議事進行をお願いいたします。

4 あいさつ

（市長）宍粟市も秋真っ盛りとなっています。11 月 3 日には千種町、波賀町、一宮町でもみじまつりが開催されました。12 日には波賀町で軽トラ市が開催され、たくさんの方にお越しいただきました。主催者発表では 2,500～3,000 人の来場でした。今週末の 18、19 日には、最上山公園のもみじまつりが開催されます。もう既にたくさんの方が来られている状況です。明日 15 日発行の広報宍粟に、ちくさもみじまつりでのたたら製鉄体験の様子が載っています。歴史や文化、いろいろなものを守りながら次世代へつないでいくことは大事であると思っています。学校教育の分野でも、ふるさと教育の中で、教育課程として取り組んでいただいていると思っています。また、次期教育振興基本計画策定については、策定委員会の中でも協議いただき、大詰めを迎えているようではありますが、この後、策定状況を事務局から報告いただく中で、次のステップにいければいいと思っていますので、限られた時間ではありますが、よろしく願いします。

5 協議報告事項

(1) 宍粟市教育委員会事務事業（平成 28 年度実施事業）評価結果について

これより協議報告事項に入ります。宍粟市教育委員会事務事業（平成 28 年度実施事業）評価結果について担当課から報告をお願いします。

（教育総務課長）宍粟市教育委員会事務事業（平成 28 年度実施事業）評価結果について報告さ

させていただきます。教育委員会では年度当初に「宍粟の教育」を作成し、各世帯に配布し事業についてお知らせしています。H28年度に取り組みました様々な事業について、点検評価を実施することが法律で定められています。9月下旬に事務事業評価委員会を開催し、各項目について委員評価をいただきましたので報告をさせていただきます。

別冊1「平成29年度（平成28年度事業対象）宍粟市教育委員会点検・評価報告書」の1ページは評価の概要、根拠法令等を記載しています。2ページは平成29年度点検評価有識者等名簿を載せています。3ページ以降は、教育委員会の活動状況についての報告です。10ページから各評価項目となります。評価指標は、10ページ右上に記載しております「A」：満足できる、「B+」：概ね満足できる、「B-」：あまり満足できない、「C」：満足できないの4評価で、まず事務局で自己評価を行い、その結果について各委員から意見等をいただきながら委員評価をいただきます。全36項目について評価をいただきました。うち28項目について「B+」評価をいただいています。あと8項目について「B-」評価をいただきました。平成28年度事業において「A」、「C」評価はありませんでした。自己評価「B-」については、反省する点も含めてまだまだ伸びる点があるという意味で自己評価をしていました。

個別に報告します。11ページ「保育士の資質向上」については、もう少し頑張る必要があるのではないか、また園所評価の実施と合わせて「B-」評価をいただきました。15ページの「学力向上に向けた取り組み」については、全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ今後教育委員会で取り組むべき事項があるということで「B-」評価をいただきました。16ページの「読書ボランティアの充実」については、読書ボランティアの協力を得ながら読書時間を高めていこうというものです。また「英語スピーチコンテスト、スクイム市派遣国際交流」については、もっと事業の充実が図れるであろうという評価です。「アクティブラーニングを取り入れた授業改善の推進」について、新しい取り組みであり今後発展していくという意味で、それぞれ「B-」評価をいただいております。18ページ「教師力を高める学校づくり」は、自主研修グループの活動活性化について事務局より、教師の研修研鑽し、教師力を高める必要があるということで、「B-」の報告もありました。19ページ「オープンスクールの実施とホームページの充実」については、ホームページの更新状況についてももう少し頑張っていたきたいということで「B-」評価となっています。20ページ「ノー会議デー・ノー部活デーの実施」について、なかなか実施できにくい取り組みであることは十分わかるが、先生方の健康面等も考慮し「B-」評価となっています。36項目全てについて報告させていただいたらいのですが、以上でご報告とさせていただきます、この会議での意見交換をお願いします。

（市長）概略について説明がありましたが、何か意見等ありますか。

（前田委員）16ページ「読書ボランティアの充実」について、読書時間の割合が低いという課題がありますが、本をたくさん読んで思考力を高めることも大切であると思います。読書ボランティアの活動も重要であると思いますし、司書の方に学校で本の紹介をしていただき子供たちの本への興味を高めてもらえたらと思います。実際、そういった司書の活動は行われているのですか。

（学校教育課長）現在、市内の学校司書は学校教育課に1名配置となっています。学校からの要望に応じて、市内の学校を巡回して活動を行っている状況です。個々の学校や教室まで入って直接、児童生徒と触れ合う中で本の紹介を行うなどの踏み込んだ指導、支援はなかなかでき

にくい状況です。一方で波賀小学校では、34名もの読書ボランティアの方が協力していただいております。読書ボランティアの方に、そういうスキルや意欲を高めていただいて、子どもたちに関わっていただけるように、学校司書はそのアドバイザー的存在で活動をしています。

(前田委員) 子どもたちが受身でなく自分からすすんで本を読む力を高めていかないと、読書習慣は定着しないと思うので、専門的な司書の力が必要であると思います。

(学校教育課長) 子どもたちの学びへの意欲を高めることは、日々の積み重ねであると思っています。ボランティアの方が増えてくださることも大事ではあるが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の新しい職員配置もチャレンジしながらでないと、その辺にはなかなか踏み込めないと思いますので、事務局としては学校司書の配置も含めて取り組んでいきたいと思っています。殆どの学校で朝読時間がありますが、それだけの時間では不十分であると思います。家庭、地域の方々にもご協力いただき、課題を共有する中で地域総がかりで読書習慣の向上に取り組めたらと思っています。

(教育長) 学校ではかなり読む習慣は身につけてきていますが、家庭での読む習慣が非常に少ない状況です。アンケートの中でも、保護者が本を読まない、新聞購読がなくパソコンやスマートフォンでニュースを見るなどもあり、家庭で本を読む時間が少ない子どもが増えていきますので、学校においても家庭での読書の啓発等について取り組みを進めていただいているところです。

(前田委員) 他市の取り組みですが、読書意欲を高めるために、貯金通帳のような読書通帳を発行して、読んだ本を記録していく取り組みがあるそうです。そういった取り組みも活用していただければと思います。

(教育部次長) 社会教育の部分でも読書活動の推進は大きな課題です。市内図書館に図書検索システムも導入しており、個人の貸出履歴、個人データも把握できるので、図書館の利用について周知をしていきたいと思っています。

(市長) 読書活動の推進は重要な課題でありますので、自己評価、委員評価ともに「B-」でありますので、さらに読書習慣の向上に取り組んでいただきたいと思っています。

(金本委員) 27ページの委員意見欄に「元気で老後を過ごすにはスポーツが大事である」とあります。その通りだと思いますし、平日の利用者がもっと増えればという利用者の声も聞きます。健康増進のためにもプールの利用について、市内外の方にもっと利用いただくため、宣伝をもっとお願いします。

(市長) プールの利用については、以前のちくさ屋外プールの利用者数は年間2千人で、現在のちくさ温水プール利用者数は、18千人ほどになっています。65歳以上の方は無料であり、たくさんの方に利用いただいています。時間帯によって利用者人数も違うと思いますが、小中学生の利用が低調していますので、さらにPRを進めていきたいと思っています。

(市長) 私からも1点伺いたい。16ページ「ICTを活用したわかりやすい授業づくりの推進」について、自己評価「B-」の理由を教えてください。

(学校教育課長) まだまだ取り組みのゴールは先にあるということを、委員のみなさんにご報告させていただきました。整備という点では、第1段階整備は100%以上です。次の段階の子どもたちがタブレットシステムを活用していくために、先生方に習熟度を高めていただくためには、もう少しスピード感を持って授業に役立てていただきたいと思います。事務局の指

導の頻度も含めて「B-」としています。委員の方は、教師用タブレットの整備においては「B+」で良いのではないかという評価をいただきました。

(市長) 評価については、教育内容と区別して評価したほうがいいと思います。

英語スピーチコンテストは他市町にもあまりない非常にいい取り組みであると思うが、自己評価「B-」の理由を教えてください。

(学校教育課長) 取り組みに満足できないわけではありませんが、英語スピーチコンテストだけではなく国際交流事業全体をみて、まだまだ取組んでいきたいという意思表示をしたものがあります。

(市長) わかりました。他に意見等ありますか。(出席者から意見無し)

これで意見交換を終わりたいと思います。

(2) 次期教育振興基本計画の策定状況について(中間報告)

次期教育振興基本計画の策定状況(中間報告)について、事務局から報告をお願いします。

(学校教育課) 次期教育振興基本計画策定については、市民の委員を含めた17名を選出し協議を進めていただいています。8月21日に第1回委員会を立ち上げ、以降、10月5日に第2回目、11月13日に第3回目の委員会を開催し、昨日の第3回委員会資料として別冊2について協議をいただきました。詳しい協議内容等については、学校教育課副課長よりご説明します。

(学校教育課副課長) 別冊2をご説明します。中核を担う基本理念ですが、昨日の会議で次のように決定しています。「夢と自信をもち、魅力あふれる宍粟の明日を担う人づくり」、案3がベースになっています。続いて資料2、基本理念に従い基本目標を6つ挙げています。この基本目標についても、会議の中で委員から承認を得ています。それぞれの基本目標に対して23の主要施策がありますが、この23の基本施策についても、委員のみなさんから了承を得ています。資料3は23の主要施策について記載しておりますが、リード文について、委員から市民の方に読みやすい軽易な言葉で簡潔にという指摘がありましたので、今後精査していきます。①②が主要施策の具体的な考え方について説明をしています。アンダーライン部分については、用語が少し難しいと思われるので、別添資料の巻末に用語説明を付けています。今後の予定として、第4回検討会議を12月11日に開催予定です。検討会議で完成したものを、最終的に審議いただき、その後、最終的修正を加えたものを1月上旬頃からパブリックコメントにかけて、年度当初から施策に反映させるという流れで予定しています。

(市長) 中間の概略報告がありました。委員のみなさん、何かご意見等ありませんか。

(教育長) パブリックコメントは、いつから実施されますか。

(学校教育課長) 最終案に修正を行い、1月上旬からパブリックコメントにかけたいと思っています。

(市長) 委員、ご意見ございませんか。

(前田委員) 子どもたちの悩みを聞くスクールカウンセラーの配置状況について教えてください。

(学校教育課長) スクールカウンセラーの配置については、国の予算に基づいて県教委が配置を行っています。中学校については市内全中学校に、また小学校については、児童数の多い小学校に配置の拠点校として配置されています。市内7中学校に週1回、山崎小学校と河東小学

校がセットで週1回、城下小学校と神野小学校がセットで週1回、昼食時間も含め1日6時間程度学校に滞在し、子どもたちのカウンセリングや保護者の相談を受けていただいています。毎日ではありません。

(前田委員) 普段悩みを抱えている子どもたちが言いやすい場所は、保健室ですか。また、スクールカウンセラーは全小学校には行かれないのですか。

(学校教育課長) 担任にはなかなか言えない事も保健室では言える児童生徒が多いことも事実です。スクールカウンセラーは、各中学校区で中学校より小学校にも行っていただいています。スクールカウンセラーが、月に1日も行かないという小学校がないように、配置されている学校に配慮をお願いしているところです。

(前田委員) あまり知らない人に子どもたちから相談には行かないと思うので、保健室の先生によく話を聞いてもらいたいと思います。放課後がんだりタイムなどで、教員をリタイアされた方に悩みを聞いてはもらえないですか。

(学校教育課長) 養護教諭の職務内容も多忙化しており、子どもたちの悩みを理解する取り組みを学校教育でも推奨し、指導助言しているところであることもあり、職員全体で子どもたちの話が聞ける体制づくりを推奨しています。放課後がんだりタイムについては、家庭における学習習慣の確立をめざした取り組みです。1人の子どもに多くの教職員が関わる体制が進めば、カウンセリング相談について、少しハードルが低くなるのではないかと思います。その辺も先生方に学んでいただきながら取り組みを進めているところです。

(教育長) カウンセリングを受けることについて、以前は抵抗感があったが、今は抵抗がなく需要が多くなっています。保護者もカウンセリングを受けられる方が増えています。県教育長会でも週1回ではなく日数を増やしてほしいと要望をしていますが、財政的なこともありなかなか実現しませんが、次の段階として全小学校に配置できるように進めてもらっている現状です。

(市長) 長期構想の基本理念、案3「夢と自信をもち」は、どのような議論の中で決まったのか。

(学校教育課副課長) 会議において、「夢」はどういったものを具体的にイメージしたのかという質問がありました。子どもが自分の将来像を描いて、それを実現していく過程を「夢」という文言で表し、「自信をもち」は、これからの10年は今まで以上に色々な技術革新、グローバル化が進むと思いますが、その荒波に流されるのではなく、自ら自信を持って荒波をチャンスと捉えて自己実現に向け取り組んでいくというイメージを文言に込めさせていただきました。

(市長) 宍粟市振興計画の基本理念とは合致するのか。

(学校教育課長) 市振興計画の基本理念と合致します。

(市長) 他に意見等ありますか。(出席者から意見無し)

これで意見交換を終わりたいと思います。

(3) 平成30年度予算編成について

それでは、次の項目に入ります。平成30年度の予算編成について、事務局より説明をお願い

いします。

(教育総務課長) 現在、平成 30 年度予算について、各課で予算要求、積算事務を行っています。市の予算にも限りがあり、また今後、財政課による財政査定もあり、平成 30 年度予算案決定は 2 月頃となりますが、現在各課における予算要求段階の主だった項目について説明します。教育総務課では、拡充事業として宍粟市奨学金について定員 40 人枠を撤廃し、奨学金の額を 10 千円増額し 60 千円とする議案を上程予定で、平成 30 年度予算についても要求しています。就学支援制度について、入学前に入学準備金を支給したいと考えています。また、中学校遠距離通学補助事業については、旧町制度の補助を平成 30 年度から市内統一した遠距離通学対策を行いたいと思っています。学校教育課では、新規事業として学校業務改善推進事業、拡充事業としてこころの教育推進事業を小学校に加え、中学校でも取り組む予算要求をしています。この他に継続事業の郷土愛育成事業、しろう学校生き生きプロジェクト事業、いじめ対策総合推進事業、特別支援教育総合サポート事業、ひょうごがんばりタイム事業を継続して取り組んでいくための予算要求をしています。こども未来課では、幼保一元化推進事業で具体的な計画が進んでいる戸原認定こども園、一宮北認定こども園について、平成 31 年 4 月開園に向けた予算要求がされています。新規事業として、河東、城下、くりのみの学童保育所の増設、新設事業により施設の整備を図り定員の拡充の検討、また、委託事業でキャリアアップ処遇改善を行っていく予算要求となっています。平成 29 年度新設の施設整備課においては、新規事業として千種小学校屋内運動場屋根改修事業、学校 ICT 環境整備事業における校務用パソコンや大型モニター、タブレットの購入を検討されています。継続事業として、山崎東中学校、山崎西中学校の大規模改修事業を予算要求されています。社会教育文化財課においては、以前より取り組んでいる図書館運営事業、生涯学習講座等事業、文化財保護事業、歴史資料館管理事業に取り組みたいということです。給食センターにおいては、宍粟の特色ある取り組みとして、地産地消の推進に取り組まれます。各課の主な予算要求の取り組み状況について報告をさせていただきました。

(市長) 平成 30 年度予算編成にあたり市職員に一定の方針を伝えながら、可能な限り持続可能な町を作っていかなければならない。今現在予算総額的には 230~240 億円の枠の中で予算を立てていきます。その内教育費は 10%ちょっとで 24 億円程になってくると思っています。現在の少子高齢化の中で、子育て環境の充実、合わせて定住の推進といったところに重点的に予算を配分していきたいと考えています。市民の皆さんが将来の夢と同時に誇りを持てる町づくりをしなくてはならないと考えています。学童保育を含めて働き方がずいぶん変化していますので、河東、城下、そして、またニーズに合わせて充足していかなくてはならないと考えています。皆さんから色々なご意見をいただき可能なものは取り組んでいけるよう努力していきたいと考えています。もう 1 点は、教育研修所について、少し手を入れる中で、氷の山、森林セラピー、カヌーにたくさんの方にお越しいただいているので、歴史的なものも含めて充足できないかと考えています。例えば、農業、林業、風土含めて、そこにいけば分かるというようなことも今後考えていかないといけないと思っています。教育委員会にも意見をいただきながら、てこ入れをしていきたいと思っています。それから全国的に学校の先生方が非常に多忙で、まさに働き方改革をしなくてはいけないと思っています。先生方が子どもたちと関われる時間を更に増やししながら、働き方の改革がモデル的に実施できないかと考えています。先生方が子

どもと関われる時間をしっかりと整えていくことが非常に重要であると思います。潤沢にお金でということではなく、可能な限り知恵を出していただいて、新年度そういった事ができればと思いますので、よろしくお願いします。

委員のみなさんから、平成30年度予算編成も含め、ご意見をお願いします。

(教育部長) 教育委員会の中で廃校、閉校した学校の校歌を収集して、保存できないかという提案がありました。今、校歌の収集、研究をしています。

(教育総務課長) 現在、宍粟郡、市で閉校した幼小中の資料収集をしています。楽譜のない学校があったり、どうやって保存していくか等の調査、研究をしているところです。

(市長) 例えば、野原小学校の1教室で展示して、歴史として残していく等考えてはどうか。

(教育部長) ボタンを押せば校歌が流れるというようになればいいなと思います。

(教育総務課長) 直近の閉校した学校だけでなく、昭和30年代の小中学校の歴史を辿りながら研究、努力しているところです。

(市長) まず楽譜が残っていたら集めていただいて、そこからスタートしたらいいと思う。野原小学校の2階奥のスペースとかを活用して、保護者や先人が見たら観光の一つになる。残していくことも重要であると思う。

(前田委員) 野原小学校は、いつでも入ることができますか。

(市長) 展示とかそういうものが今は何もありませんので、そういった事したら、隣の幼稚園跡のおふくろ工房とも連携して、来られた方に宍粟の歴史とかに触れていただき、施設を活用したらなお活力が出てくると思います。

6 その他

(市長) 予算のほか、委員から何かご意見ありますか。

(金本委員) 総合教育会議について、もう少し時間があればいいと思いますので、会議時間について考えていただければと思います。(わかりました。)

(前田委員) 森林大学の平成30年度の生徒募集状況について教えてください。

(市長) 8月に2回オープンスクールを開催し、どちらも人気があり、26人の学生が見学に来られました。うち女性4名が、是非挑戦して入学したいと言っていました。今年入学した学生は、森林セラピストや樹木医を目指している学生もいます。来年度の生徒募集については、今応募をかけていますが、入学者20名は確保できていると思っています。

7 閉会

(教育長) 委員の皆様には教育委員会に引き続きまして総合教育会議に出席いただきまして、長時間ありがとうございました。大きな3つの議題について審議いただきましたが、教育委員会の事務事業評価を今後生かしながら、参考にしながら、次期の長期構想であるしそ生き活きプランに反映させていけたらと思います。本当にありがとうございました。将来の宍粟の子どもたちの心豊かな育ちにつなげていけたらと思っておりますので、今後とも助言またはご意見等をいただきますようお願いしまして、閉会とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。